

## 1 2 4 「Fraguas de Gitanería」

「ミ ジェガ セ メ アルポロータ」

「アル ジェガール ラ プリマベータ」

男性の緊張感あふれる、甲高い歌声で始まるこの唄、、、初めの2、3フレーズ聴いただけで、ドラマチックな歌い方に引き込まれた。男性の唄が終わると、女性コーラスと手拍子に続き、ギター伴奏の間に転調、そして女性ソロが始まる。若い女性の声だが、喉の奥から絞り出すようなかすれ声が凄くいい！

男女ソロの部分は短く、アッという間に終わってしまい、再び女性コーラスの印象的なメロディーが何度も繰り返され、野太い声のナレーション、そして最後は馬の「荒い息音」で終わる。

とても印象に残る唄だ。テンポはかなり速く、リズムはルンバ(ルンバ フラメンカ)の様でもあるし、パルマ(手拍子)はタンゴ(タンゴ フラメンコ)風だ。唄の言葉は速く、ほとんど聴き取れない。

かろうじて聴き取れたのは、

「ジェガール ラ プリマベータ」 春が来る

「ロス カミーノス」 道

「タンボリル」 太鼓

「ノーチェ デ ルナ ジェナ」 満月の夜

「シンフォニア」 交響曲

何の唄だろう？ 題名の「Fraguas de Gitanería」フラグアス デ ヒタネリーアとは？

辞書には“フラグア”は“鍛冶屋の炉”、“ヒタネリーア”は“ジプシー達”とある。意味は『ジプシーの鍛冶屋(炉?)』となるが、さて何だろう？曲の最後に入れられた、象徴的な馬の「息音」と合わせると、馬と鍛冶屋に関係ある唄と想像される。しかし、わずかに聴き取れたロマンチックな単語とは結びつかない。動画では、たくさんの馬が教会前の広場に集まる画像が流れる。

### Fraguas de Gitaneria

この唄が気に入り、何度も繰り返し聴いた。男性、女性ソロの部分が短く、コーラスが長すぎる、という少し残念なところもあるが、とにかく惹かれる唄だ。

ネット上で歌詞を探したが、なかなか見つけることができなかった。なぜないのだろう？多くの唄の歌詞は見つかるのに、、、と調べてもなかなか見つけられず、あった！と思ったら有料だったり。一旦諦めたが、数ヶ月経って気を取り直してしつこく調べたらやっと見つかった！

歌詞が知りたかったのは、詳しい意味を知りたいというより、唄の言葉があまりにも聴き取れないので、唄と言葉を一致させ、大体どんなことを唄ったものか知りたかったためだ。

## 「Fraguas de Gitanería」

ガロパンド ボルロス スウエイヨス  
唄 Galopando por los Sueños

アデリーナ パラシオス フェルナンデス  
詩 Adelina Palacios Fernández

ミ ジェガ セ メ アルポロータ  
Mi yegua se me alborota

アル ジェガール ラ プリマベータ  
Al llegar la primavera

イ スウエニヤ コン ロス カミーノス  
Y sueña con los caminos

コン エコス デ タンボリーレス  
Con ecos de tamboriles

コン ラ ハラ イ エル トミージョ  
Con la jara y el tomillo

イ エ ラ トウ エラドール  
Hierrala tu herrador

イ エ ラ トウ エラドール  
Hierrala tu herrador

シグエ トウ アル コンパス デル ジュンケ  
Sigue tu al compas del yunque

ジャ セ ヘルディエロン ラス フラグアス  
Ya se perdieron las fraguas

コン ロス ピノス イ ラス アレーナス  
Con los pinos y las arenas

エン ノーチェ デ ルナ ジェナ  
En noches de Luna llena

コン ラ ラジャ イ コン エル ケ マ  
Con la raya y con el Quema...

ボンレ エラドゥーラス デ プラータ  
Ponle herraduras de plata

ボンレ ベスターニヤス エン ラス パタス  
Ponle pestañas en las patas

ケ エンブルーホ デ シンフォニアス  
Que embrujo de sinfonías

フラグアス デ ヒタネリーア  
Fraguas de gitanería

イ ラス マノス デ ミ ジェグア  
Y las manos de mi yegua

エスケ ラ イエルバ エスタ フレスカ  
Esque la hierba está fresca

イ エジャ スエニヤ コン ミ カンテ  
Y ella sueña con mi cante

イ アスタ ス トランコ エス マス コルト  
Y hasta su tranco es más corto

イ エ ラ トウ エラドール  
Hierrala tu herrador

イ エ ラ トウ エラドール  
Hierrala tu herrador

シグエ トウ アル コンパス デル ジュンケ  
Sigue tu al compas del yunque

ジャ セ ヘルディエロン ラス フラグアス  
Ya se perdieron las fraguas

セ ジェナン デ ハラマゴス  
Se llenan de jaramagos

ラ プリマベーラ ア ジェガード  
La primavera ha llegado

アルス デ ラス カンデーラス  
A luz de las candelas

クアンド ベニーモス デ プエルタ  
Cuando venimos de vuelta

ボンレ エラドゥーラス デ プラータ  
Ponle herraduras de plata

ボンレ ベスターニヤス エン ラス パタス  
Ponle pestañas en las patas

ケ エンブルーホ デ シンフォニアス  
Que embrujo de sinfonías

フラグアス デ ヒタネリーア  
Fraguas de gitanería

これで、どんな歌詞をどのような発音で唄っているかがわかった。

次は意味だ。ネット上のスペイン語翻訳で試してみたが、何となく意味は伝わって来るが、この訳ではほとんどわからない。とりあえず1番だけ記してみると、、、

私の牝馬は動揺します

そして道路の夢

タンバリンのエコーで

ロックローズとタイム付き

それをあなたの蹄鉄工にブランド化する

それをあなたの蹄鉄工にブランド化する

アンビルのコンパスにあなたに従ってください

鍛造はすでに失われています

春が来るとき

松と砂で

満月の夜に

ラインとバーニングで..

銀の蹄鉄を置く

足にまつげをつけます

なんて交響曲の呪文

ジプシーは偽造します

辞書で単語の意味を調べれば、もう少しマシな訳ができると思うが、詞の翻訳はそれほど簡単ではない。別に意味が分からなくてもいい、と暫く放っておいた。

月日が過ぎて、そうだ！セビリアのマリアムに訊いてみようと思い立ち、フェイスブックのメッセージを通して質問してみた。彼女は頻繁にフェイスブックで発信していて、弟や、母親もそれぞれ独自に発信している。質問への返信が以下である。

Hola hiroshi! Que alegria saber de ustedes y que todos estan bien. Nosotros tambien estamos todos bien

La cancion que escribe habla de yegua que es mujer de caballo

Que cuando llega primavera se "alborota", es como tu vuelves loco de felicidad

"Ecos de tamboriles" Es sonido de pequeño tambor

Tipico sonido español

Herrador es hombre que trabaja hierro

Y hace 🐾🐾 zapatos para caballo

"Fragua" Es lugar donde trabaja el herrador con hierro, y cuando trabaja hace ruido y ese ruido es como compás de palmas para cantar

La letra es como decir que herrador pone compás al caballo en primavera cuando pone sus shoehorse para que el salga a caminar

<https://youtu.be/Ftk014BN3Dk>

Las manos de mi yegua se llenan de jaramagos: jaramagos son trozos de hierba de campo, sus patas se llenan con ellas cuando camina

Es como si caballo baila por el campo en primavera cuando pasea

"Yunque" Es herramienta

Cuando trabaja hierro hace tin tin tin, y es como compas de musica

Entiendes ahora mejor?? Es bonita letra

Jara y tomillo son plantas 🌿 que hay en campo, y "el quema" Es camino que va al Rocío, recuerdas que es Rocio? Iglesia famosa donde todos los años van a ver a virgen

Toda la cancion tiene cosas de Rocio

Y su tranco es mas corto es decir que pasea despacio

Tranco es distancia cuando andamos

分かりにくそうな部分を選んで、丁寧に時にはイラスト入りで説明してくれ、ほぼ理解することができた。キーワードは“<sup>エル</sup>ケマ”だ。“quema”は「焼くこと、焼却、火刑、火事」というような意味で、その意味では通じないが、“el Quema”と大文字で書けば、「ロシオへの道」を意味する。マリアムの返信文は quema と小文字で書かれているが、説明は“ロシオへの道”となっている。

巡礼者の道を含む地域を流れる「ケマ川」を、ロシオ巡礼の象徴として“el Quema”と呼ぶようになったようだ。

これだけで“ロシオ巡礼を唄ったもの”ということがわかる。この一言だけで多くのことがスッと納得できた。さらにいくつか分からないところがあり追加で訊いた。

Gracias por la explicación del poema. Lo casi entendí bien. En particular, no entendí "Con la raya y con el Quema" en absoluto. Pero yo lo entendido. El significado de cada palabra era difícil y no podía encontrarlo buscándolo en un diccionario. Hay unas partes que todavía no entiendo. ¿Cuál es la conexión entre "A luz de las candelas" anteriores y posteriores? Además, "Y hasta su tranco es más corto Cuando venimos de vuelta" ¿Por qué "Cuando venimos de vuelta su tranco es más corto? Quiero que me digas por favor. Veo muchas fotos de tu esposo e hija Greta. Gracias! Hiroshi

『ろうそくの明かり』と前後の意味が繋がらない」  
「馬の歩幅が狭くなるのは何故？」という2つの質問  
すぐに次のような返事がきた。

Hola Hiroshi

Pues su tranco es mas corto cuando venimos de vuelta es decir que cuando regresa de paseo en campo su tranco ( es su paso, distancia entre pie y pie cuando andar) es mas lento, pues caballo esta cansado. Andar por "quema" Es muy cansado por que tener mucha arena

Quema es nombre de un rio

Que personan cruzan para ir a Rocio

「馬の歩幅が狭くなる」のは、砂の多い悪路を、長距離歩くことによる疲れということらしい。確かに、人を乗せた荷車を引きながら何日も歩くので、馬は疲れるに違いない。

『ろうそくの明かり』の前後のつながり、については分からないようだ。詩は突然意味のつながりが分からない言葉が出てきたりする。

「ロシオの巡礼祭」は、スペイン アンダルシア地方に伝わる伝統的な宗教行事である。荷車とともに、歩いてウエルバ県にある「ロシオ」村に向かう。熱心なカトリック信者は、遠隔地から何日もかけてロシオに向かう。ロシオの聖堂にある、小さな白いマリア像「ブランカ・パロマ」を目指す一大イベントである。

教えてもらったことを踏まえて、私なりに訳してみたがどうだろう？

私の牝馬は、春が来ると幸せでワクワクになる  
松の木生えるいなかの道を夢見て  
満月の夜に響く太鼓の音、シッサスとじゃこう草の香り  
ロシオ巡礼の道に延びる轍の跡を夢見て  
馬鍛冶は銀の蹄鉄を足に打ち付け  
荷車の車輪の縁に金具を打ち込む  
鍛冶場に響く金床の音は心を酔わせる交響曲のよう  
今はもうヒターノ（ジプシー）の鍛冶場はなくなってしまった

牝馬の足はタンポポで溢れ  
新しい野の草花は春の贈り物  
牝馬はろうそくの明かりの下で私の唄に夢心地  
還り道の足取りは重い  
馬鍛冶は銀の蹄鉄を足に打ち付け  
荷車の車輪の縁に金具を打ち込む  
鍛冶場に響く金床の音は心を酔わせる交響曲のよう  
今はもうヒターノ（ジプシー）の鍛冶場はなくなってしまった

この唄は、春を迎え間近に迫った“ロシオ巡礼”を待つ、ワクワクの気持ちを牝馬に託して表すとともに、それを支えるヒターノの鍛冶屋が、今はもうなくなってしまった悲しみを唄ったものではないだろうか？（2022.02.11）